

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 誠和	代表者	赤島 健
事業所名	グレースケア あじさい	管理者	藤澤 松美

法人・事業所の 特徴	当法人は地域の中で20年の運営実績があり、特別養護老人ホームを中心に多種の高齢者施設を運営しているので、介護度や状況に合わせたサービス事業所選択が可能となっている。また、法人全体で地域福祉の向上に取り組んでいる。
---------------	--

出席者	市町村職員 1人	知見を有するもの 1人	地域住民・地域団体 1人	利用者 人	利用者家族 11人	地域包括支援センター 人	近隣事業所 人	事業所職員 2人	その他 人	合計 人
-----	-------------	----------------	-----------------	----------	--------------	-----------------	------------	-------------	----------	---------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			職員全員で取り組んでいることは理解できるとの意見	<ul style="list-style-type: none"> サービス評価の時期を早めて、余裕をもって取り組む 秋頃には実施
B. 事業所のしつらえ・環境			環境が良く、家族の利用状況からして居心地は良いと思われるという意見	<ul style="list-style-type: none"> カフェなど、地域や家族参加の行事を企画する
C. 事業所と地域のかかわり			職員は、利用者との関わりで忙しい、地域との関わりまで出来ない、あるいはわからないとの意見	<ul style="list-style-type: none"> 施設へ来る機会をつくる。 まず防災訓練を地域と合同で実施できないか関係各所と検討する
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み			通い、泊りだけで十分である。地域に向くのは無理と思うという意見。	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の特性を知ってもらうための広報活動として、1枚もので活動のお知らせペーパーを作り配布する。
E. 運営推進会議を活かした取組み			参加していないのでわからないという意見。	<ul style="list-style-type: none"> 出席者を増やすため、実施方法を見直す。会議室でなく、茶話会のような方法も検討する。
F. 事業所の防災・災害対策			利用者家族から、飲料水や食糧の蓄え及び避難、連絡体制がわからないとの意見	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難場所であることを契約時に説明する 避難訓練時に地域の人に避難してきてもらう